

新型コロナは「集団免疫」に近づいた？ 第8波の感染者数“爆発常連”の沖縄が少ない理由 12/5 日刊ゲンダイ



第7波により4人に1人が抗体保有（c）日刊ゲンダイ

「集団免疫」に近づいているのか——。新型コロナウイルス第8波が猛威を振るっている。4日の新規感染者数は8万9566人。先週の日曜日より8981人減ったが、直近7日間平均は増加傾向が続いている。

第8波で特徴的なのが、感染爆発の“常連”だった沖縄の感染者数が少ないことだ。3日までの1週間平均の10万人あたりの感染者数は245人と47都道府県で最も少ない。1位の宮城1043人の4分の1だ。

なぜ、第8波で沖縄の感染者数は激減したのか——。ヒントになりそうなのがコロナへの感染によってできる抗体の保有率だ。

■抗体保有率1位は沖縄

厚生省は今年11月6～13日に献血に訪れた全国の16～69歳の男女8260人について血液中の抗体の有無を調べた。全国で26.5%と4人に1人が感染したことになる。2～3月に東京、大阪、宮城、愛知、福岡の5都府県で行った前回調査では、1.49～5.65%と低い抗体保有率だったから、4月以降の第7波で一気に感染が広がったことがうかがえる。

最も保有率が高かったのは、直近7日間平均の感染者数が最少の沖縄（46.6%）だった。

さらに、抗体保有率の高い順に、直近7日間平均の感染者数をみると、大阪の保有率40.7%／感染者数413人=40位（以下同）、鹿児島35.2%／254人=46位、京都34.9%／

431人=38位、熊本32.9%/468人=37位——。抗体保有率上位5県は、直近7日間平均の感染者数は少ない傾向にある。

「一度感染した人は、かかりにくくなるので当然の結果がデータで示された格好です。現在、中国で感染拡大が深刻なのもこれまで感染を抑えてきたからという面があります。ただ、抗体を保有していても、免疫をすり抜ける変異株は登場するので、重症化リスクが高い高齢者や持病のある人は警戒が必要です」（西武学園医学技術専門学校東京校校長の中原英臣氏=感染症学）

6~7割が感染すれば、集団免疫の可能性があるとされるが、まだ先のような。